

「歴史文化に配慮した河川整備」について

～ホームページの更新～

研究第一部 主任研究員 遠井 文大



1. 川と歴史文化について

日本の川は、大陸河川とは異なり、源流から河口までの短い距離の間で瀬や淵、滝など様々に変化しています。これらの変化に富んだ自然環境は、単に視覚を刺激するだけでなく、聴覚・嗅覚・味覚・触覚の五感を刺激し、川の姿の変化が人々の感受性を豊かにし、文化を育んでいます。

また、文化は、それぞれの時代背景とともに生まれ、歴史が刻まれると同時に文化も留まることなく成熟し、より厚みのある日本独自の文化として確立していきました。

しかし、高度経済成長期に行われた急速な国土開発は、歴史とともに刻まれてきた風景や生活様式を短時間のうちに一変させ、そのため、数千年の歳月をかけて育まれてきた川と日本文化との関係に綻びが生じ、川は、身近にありながら人々の記憶から忘れ去られた単なる水路となり、川とともに育まれてきた歴史や文化も、川とは関わりの無いものと見なされつつあります。

近年、やすらぎや癒し、景観・環境重視といった、物質的のみならず精神的にも真に豊かな社会の実現が求められており、こうした価値観の変化は、川と人との関わりにおいても例外ではなくなっています。

このような社会的要請を考えると、人々が再び川と向き合うようになり、歴史とともに育まれた文化を後世に引き継ぐとともに、川の持つ魅力が新たな文化を歴史とともに育み続けることができる川づくりが求められています。

2. ホームページの概要

このホームページは、かわづくり、まちづくりに関係する方はもとより、興味のある有る方々にも読んでいただき、河川と歴史・文化との深いかかわりを見つめ直し、河川空間を活用したまちづくりを促進することを目的としており、河川局で運営しています。

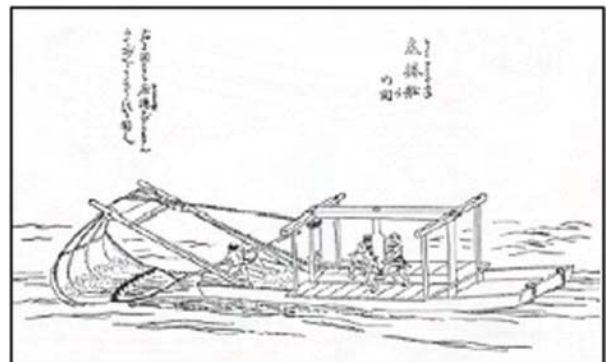
現在のホームページ内容は、平成14年度に策定したもので、情報の基本は、各河川管理者から提出された「河川伝統技術データ」や平成12年度より開催されている「歴史・風土に根ざした郷土の川懇談会」の中で参考資料として作成された「川の歴史や文化に関わる情報データ」などです。

例えば、川を中心とする祭事を集めた「全国一級河川水系の和歌と祭り」や地域の特性に合った、全国各地で継承されている伝統工法や輪中等の伝統的治水術を紹介した「河川伝統技術の事例」、河川に関する文化財、土木遺産を紹介した「川の歴史的構造物」、河川の歴史文化に関する資料を紹介する「歴史文化に関する広報資料」などわかりやすく紹介しています。

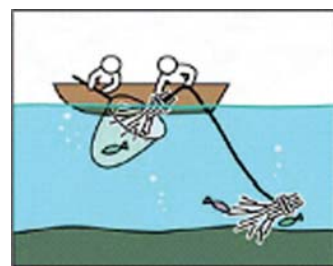
歴史文化に関するホームページ表紙



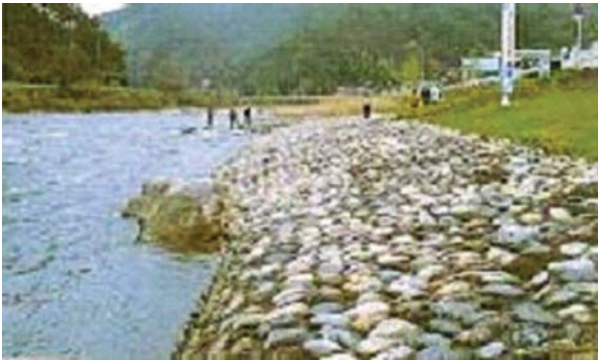
ホームページのコンテンツ（一例）



江戸期に書かれた『農具便利論 下巻』に出ている河川工事に関わる情報を提供しています。



伝統的な内水面漁法を簡単イラストで紹介しています。



河川管理者から寄せられた情報を基に歴史や文化に配慮した整備事例を紹介しています。

3. ホームページの更新

現在のホームページを広く公開し、河川管理者や川に関心を持つ市民の方々に情報提供を実施していくため、より分かり易いホームページに更新し内容を充実していく事が必要となっています。

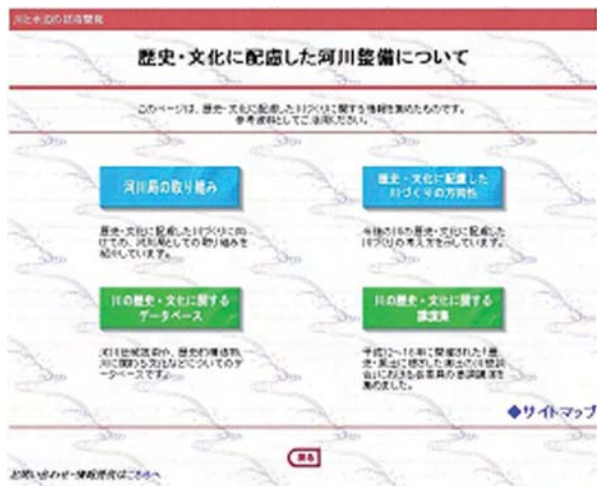
そこで、ホームページをリニューアルしていく考えです。リニューアルにあたっては、使いやすさはもちろんの事、今まで以上の情報を充実する事を検討しています。

例えば、平成17年度に文化庁が新たな文化財制度を設けています。そこで、この文化財制度の紹介とともに、全国の河川の中でどのような環境が新たな文化財（文化的景観）の候補としてリストアップされているかの情報を提供していく予定です。

また、今まで提供していた情報も更新していくこととし、(社)土木学会が選定している近代土木遺産については、平成13年情報であったものを平成17年度情報に更新し提供していく予定です。

これ以外にも、「川の歴史文化を活用した活動に関する情報」等を加えていく考えです。

歴史文化に関するホームページ表紙



※新しいホームページのトップページには、以前のように数多くのコンテンツ項目を記載する方法ではなく、興味のある項目を入口として導入できるように変更していく予定です

文化的景観として候補にあがる河川(案)(一例)



菊池川とハゼ並木
河川堤防強化のために植えられたハゼ並木と堤防を守る石積み水制がつくり出す文化的な景観



山田堰
筑後川中流部にある斜堰は、全国的にも少なくなった江戸期の取水堰の形を良く残している

4. おわりに

今回紹介しました歴史文化に配慮した河川整備に関するホームページは、皆様から提供される情報により成り立っています。皆様からのご意見をいただく事により、よりよいものに充実させていただきたいと考えています。

歴史文化に配慮した河川整備ホームページ
<http://www.mlit.go.jp/river/rekishibunka/index.html>

※平成18年9月現在、ホームページとも準備中です。